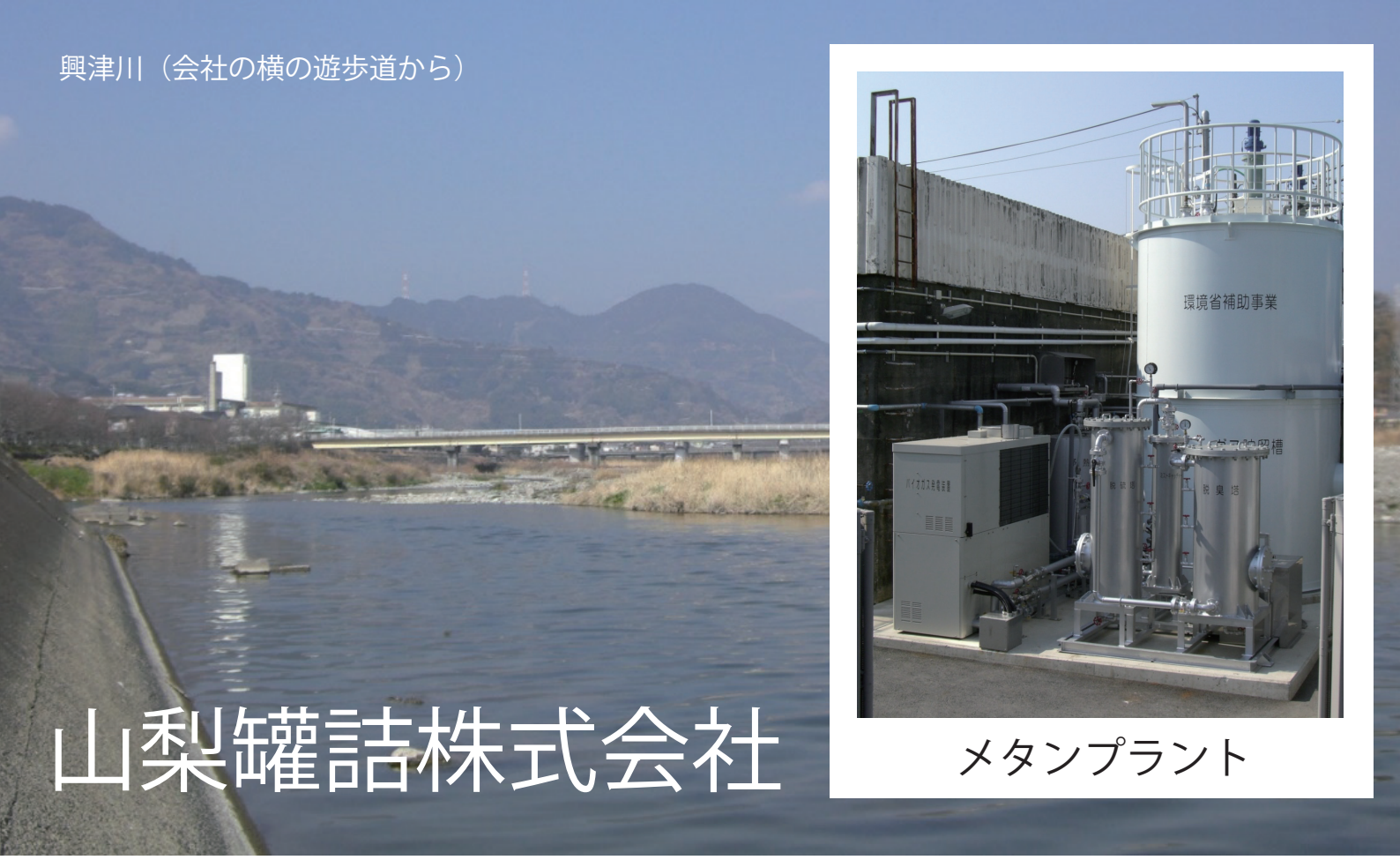


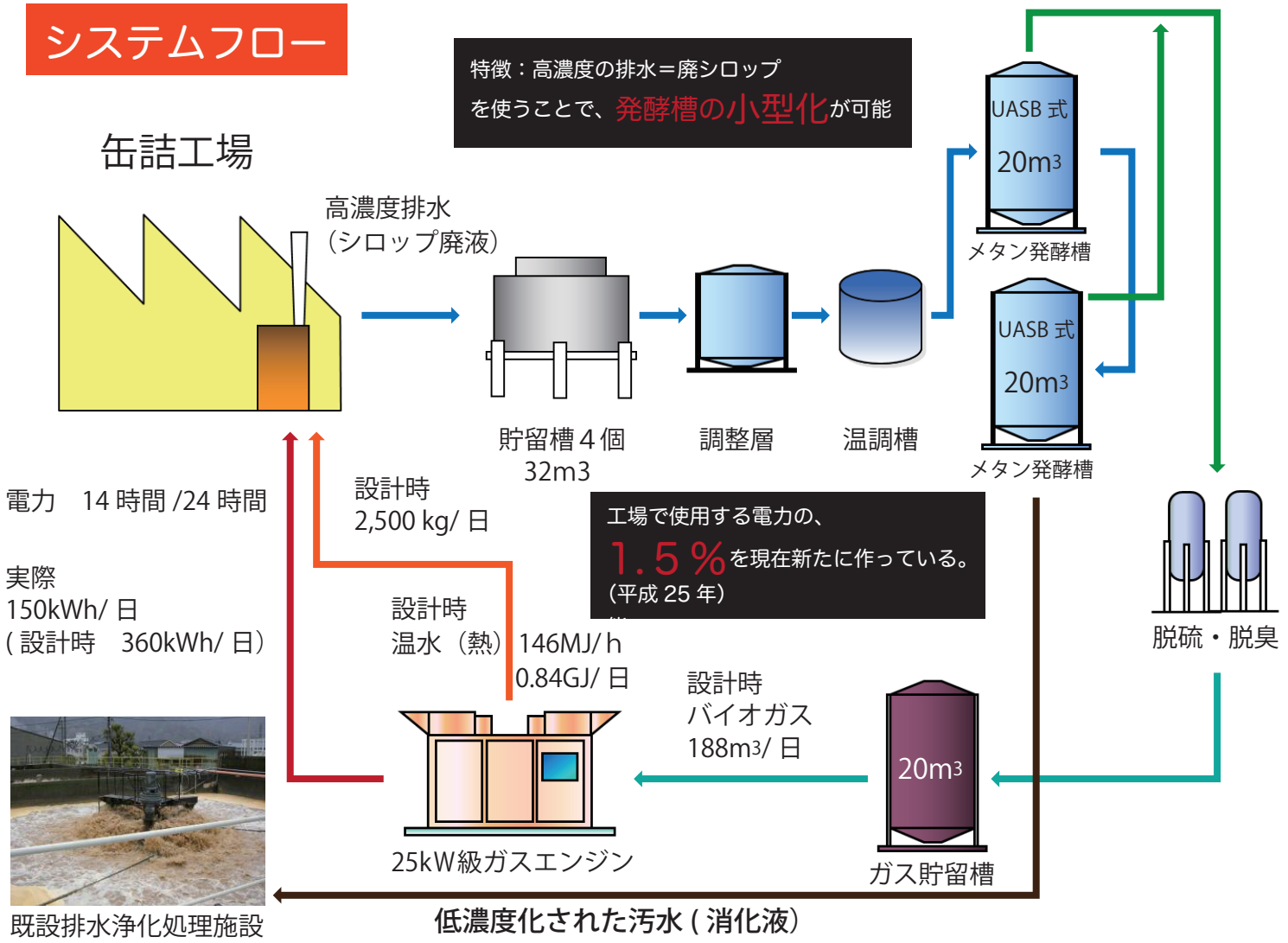
山梨罐詰株式会社

メタンプラント

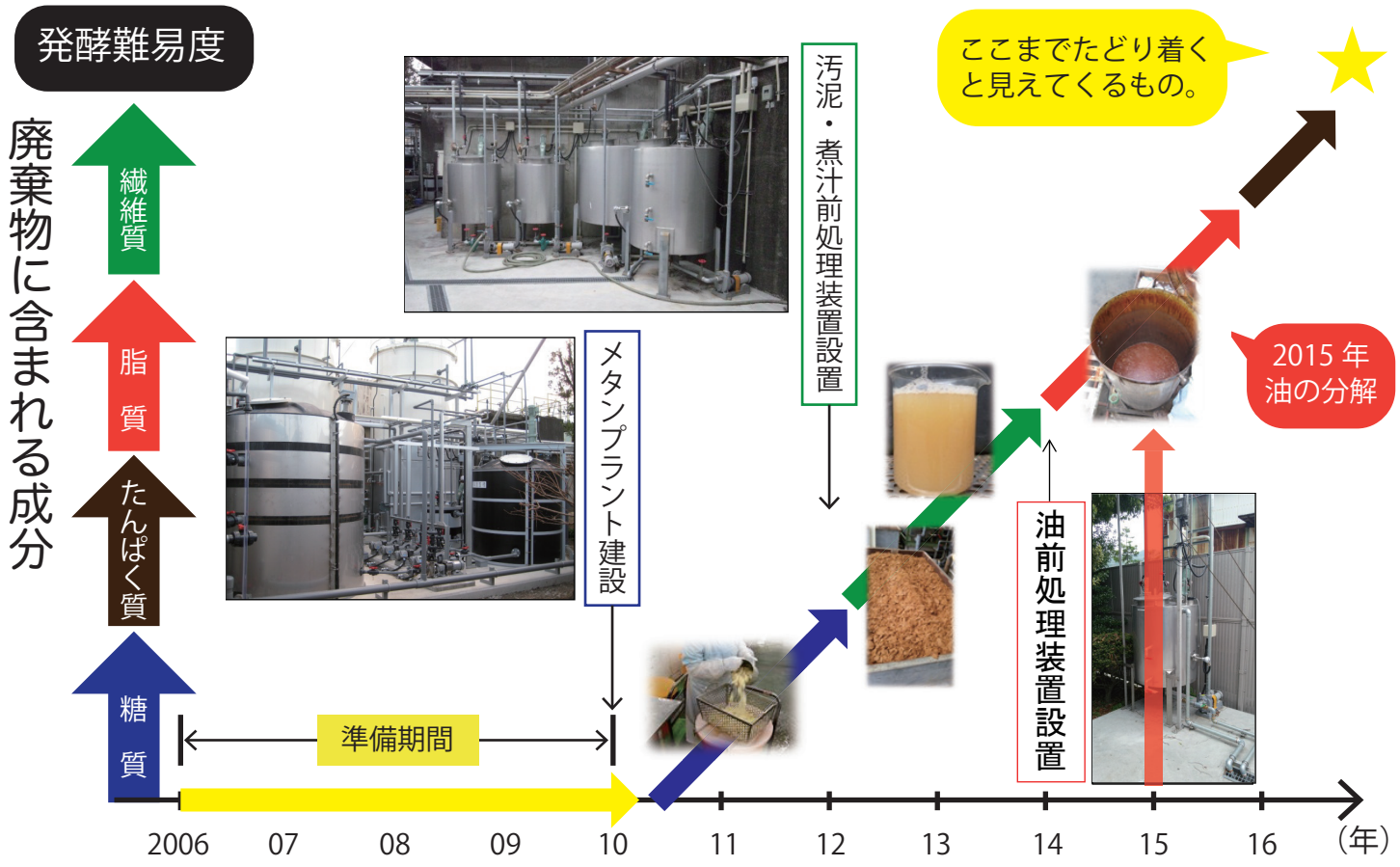
山梨罐詰株式会社製造商品

システムフロー

特徴：高濃度の排水＝廃シロップを使うことで、発酵槽の小型化が可能



山梨罐詰の実証実験（事前準備）と今後の方向性



山梨罐詰から、排出される廃棄物の処理方法　可能性

メタン発酵を利用した、ゼロミッション化

①レトルトパウチ・缶詰
２号品

②グリストラップ・油

③残渣
（フルーツ屑・野菜屑・
ネットスクリーン廃棄物）

④脱水汚泥

分別 → 固液分離 → 個体残渣

破砕　脱水　脱水・乾燥

メタン発酵

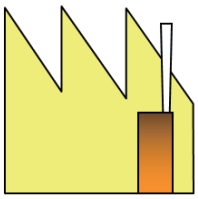
液体有機物　有機物　有機物　肥料原料として（有価物）

エネルギー　消化液 ⇒ 排水処理

テストシステムフロー
平成 29 年度～ 31 年度実証

ゼロエミッション化

前処理プラント新規追加作成及び改造



山梨罐詰㈱工場内

電力　14 時間 /24 時間
360kWh/ 日

食品残渣　水と一緒に破砕後・１次処理　２次発酵

２号品　2,500 kg/ 日

調整層　温調槽

UASB 式 20m³　メタン発酵槽

UASB 式 20m³　メタン発酵槽

脱硫・脱臭

温水（熱）146MJ/ h
2.1GJ/ 日

バイオガス
188m³/ 日

20m³

25kW級ガスエンジン

ガス貯留槽

既設排水浄化処理施設

低濃度化された汚水

排水　脱水汚泥 → 乾燥汚泥＝肥料化